

指掌図』や『傷寒百問』が多く引用されている。これらは必ずしも丹溪学説とは関係がないが、その部門の特殊性により参考に供されたものであろう。

全体を通して『啓迪集』は、引用書目から見ても、内容から見ても、朱丹溪の影響が非常に強いが、朱丹溪の考え方そのものではなく、丹溪没後に発展した学説を、道三の考えで取捨選択してまとめられたものである。なお、少数ながら東垣学派の影響も認められる。

(北里研究所附属東洋医学総合研究所)

中国伝統医学修得学生の

漢語素養について (その2)

小杉 順一

私達日本人は、昔から中国文化の影響を深く受けてきたが、明治期、社会状況の変化により全般的に欧米文化志向となった。しかし道徳規範としての中国思想は教育に取り入れられ、より多くの人々がこの影響を受けてきた。戦後は、思想・実践の両面において、中国文化はその存在の基盤を失い、現在に至っている。

このような現状で、中国伝統医学を修得しようとする学生がどの程度の素養を有しているかについて、第一学年を対象としてアンケート調査をし、前回発表の機会を得た。

その結果は、知識はある程度持つてはいるが、年齢による差が歴然と表われており、楽観を許さないものであり、また「気」についても独善の理解が目立った。

今回、最高学年たる三年生が専門的教育課程を終了する

に当り、どの程度の素養を持っているかを調査し、一年生の結果と比較検討し、知識の修得状態、専門語の理解の程度、学習に対する意欲の変化を知り、将来、社会的責任を分担できる人材を養成するための教育を立案する一つの布石とするものである。

方法は、本校第三学年一一七名を対象とし、作製したアンケート用紙(第一学年調査と同じ設問のもの)による全数、自記式とした。調査内容は、層別化のための年齢、性別、最終学歴等を置き、調査項目として、

- 1、漢字の理解。特に経穴名について。
- 2、漢文の理解。特に漢語と日本語について。
- 3、思想の理解。特に伝統思想について。
- 4、歴史の理解。特に文献について。
- 5、文学の理解。特に韻文について。
- 6、儒教について。気について。

を設けた。なお、アンケート実施期日は、昨年11月中旬であった。

結果は次のようである。

1、全体的には、有意な差と認められる場合は少なかった。

だが、三学年が一学年に比較して知識を多く有している。正規の課程内で特に漢語素養の講座は設けられていないのに、知識が増加しているというこの現象は、各々の講義内で繰り返し、基礎的前提として取り上げられているためと思われる。

2、漢字、漢文の理解についても同様、三学年がすぐれているようである。漢語と日本語との意味、語順の対応のしかた、返り点による訓読法等は、両学年ともよく理解されており、期待できる。

3、教育の効果は、経穴に使用される漢字の知識に見られるように著しいが、多少の問題も見受けられる。たとえば、経穴名は難しいと答えたものは、両学年とも83%の高率であり、その理由は、漢字が難しい、意味がわからない等であり、両学年とも同傾向であった。それに反して三学年で難くないとの理由はおぼえればよい、ならえばできる等の消極的な適応の例がみられた。

4、知識の質についても問題があり、たとえば、呉音と漢音ということばは確かに三学年の方がよく知っている。しかし具体的な文字についての理解は一学年と差がなかった。

た。また、説文解字ということばも同様三学年がよく知っているが、象形・指事等の造字法の理解はなら一学年と変わりはない。これは表面的な知識は増加しているが、その内容が伴わないように思われる。

5、儒教についての自由回答法では、三学年の方がよく答えており、客観的な見方をするものが多かった。たとえば、現代に関係ない江戸時代の封建性、主従関係等であるが、これらは皆、外面的解説であり、思想の内容までふみ込んでいえるものは少なかった。なお、この回答中に、道教に言及するものが多く、思想に対しての調査とも照し合わせる。すると学生の興味が道教に向いていることを窺わせる。

6、気についての理解も三学年の方が着実にのびている。ある・ないという存在論的理解自分で知ろうとする体験的理解、エネルギーとか精神力等と言いかえる解釈的理解、さらには教育の通りに気血衛宮等の専門語を使用して事足りりとしているものもあったが、総じて無回答は少なく、積極的に考え理解しようとする方向は表われていた。なかでも、日常語の中で、ゝ気、ゝ気ということばに注意するようになったというもの、ゝ気を一つの思想ととらえる

ものが見受けられ、これらは言葉と概念の關係に学生が自ら気づいたものであり、教育の一つの成果といえる。

7、漢文を学習する必要を感じるかという問いに対しては、両群間に有意な差があり、三学年の意欲が低下している。これは実践的活動に重点が移動しているためと解釈したいがここでも、中国伝統医学の思想的基盤は何かという根本が問われていると思われる。

(東京鍼灸柔整専門学校、筑波大学理療科教員養成施設)